第3回富山市文化財保存活用地域計画策定協議会 会議録

開催年月日	令和6年10月8日(火)
開催場所	Toyama Sakura ビル5階 中会議室
会議時間	開会 午後2時00分 閉会 午後3時30分
出席委員 (10名)	今川委員、上野委員(議長)、菊川委員、齊藤委員、島添委員、鈴木委員、関野委員、辻委員(代理出席:富山県教育委員会生涯学習・文化財室 越前副主幹)、中村委員、藪谷委員
欠席委員 (0名)	
事務局	教育委員会:民俗民芸村村長、参事(郷土博物館長)、生涯学習課長、埋蔵文化財センター所長、その他5名 ※令和6年度富山市文化財保存活用地域計画策定支援業務委託受託業者としてランドブレイン株式会社社員 2名
会次第	1 開会 2 事務局長挨拶 3 議長挨拶 4 協議事項 (1) 令和6年度スケジュールについて (2) 富山市文化財保存活用地域計画骨子案について ① 将来像について ② 文化財保存活用における課題と方向性案について ③ 富山市の歴史文化の特徴について (3) 未指定文化財の件数について (4) ワークショップについて 5 閉会

—会議録(概要)—

1. 協議事項

(1)令和6年度スケジュールについて

(2)富山市文化財保存活用地域計画骨子案について

事務局 ～資料1 令和6年度スケジュール、資料2 富山市文化財保存活用地域計画骨子案、資料3 将来像について、資料4 文化財保存活用における課題と方向性案について、資料5 富山市の歴史文化の特徴、参考資料 各自治体の歴史文化の特徴及び関連文化財群について説明～

議長 資料3(将来像について)について、ご意見、質問はあるか。

委員 「つなぐ・つながる」というキーワードの根拠として、関連計画を挙げているが、「つなぐ・つながる」と関連計画の関係がどこにあるか、わかりにくかった。

事務局 例えば、総合計画内に「富山の文化的アイデンティティ(富山らしさ)」という文言があるが、なかなか富山らしさが何かについて答えられない人が多いのではないかと思う。合併前の自治体史はあるが、富山市全体の歴史的な通史はなく、また、市内にテーマ館

はあるが、総合的な博物館もなく、富山市のイメージを総合的に示すものがない中で、市民に対して、富山の歴史、富山らしさを今後提示していく必要がある。スマートシティ推進ビジョンでも、「市域全体の均衡」、「地域の魅力を分かち合い支えあう」という言葉が出てくる。今後、富山らしさや富山市の一体感を作っていくとはいけない課題があると考え、「つなぐ」という言葉を使った。

委員 「つなぐ」という言葉は良いが、関連計画から導き出したという流れでは弱く、説明を聞くと、関連計画から導き出したという書き方でなくてもよいのではないかと感じた。

事務局 計画内では順序立てて記載しなくてはいけないため、工夫して書きたい。

委員 「文化財」か「歴史文化」とする案があるが、説明を聞くと、言葉としては、「歴史文化」を使った方が良いのではないかと思った。「歴史文化」というと、文化財以外も含められることや、文化財だと単体のものをイメージするため、「歴史文化」という言葉を使うのが良いと考えた。また、関連計画を見て、富山らしさや誇りという言葉があり、文化財を保存活用していく上で、市民プライドを活かしながら「誇る」「誇れる」というキーワードも大事だと感じた。東京理科大学の伊藤先生がシビックプライドを研究されており、歴史文化がアイデンティティ、愛着を創生すると言っている。富山らしさを支えるものとして、シビックプライド、誇りが重要になる。教育的な部分でも市民の理解や誇りを醸成していくことが、文化財を守り、継承していく上で重要だと思う。関連計画との整合性を図る上でも、「誇り」が入るのが良いのではないかと感じた。

議長 合併して富山市の文化はさらに広がった。海から山まで広範囲であり、それぞれの地域がつながりをもっていることは重要である。小学生が歴史文化に触れることは良い教育である。地域の誇りを持つことで、地域に愛着を持ち、祭りの時は帰ってくるといったコミュニケーションがとれ、暮らしに息づいた文化財になる。

委員 将来像をどのように書くかは難しいことだが、漠然としたイメージで書くのが良いか、具体的に読んですぐイメージできるものが良いのかに大きく分れる。漠然としたイメージでは、綺麗に聞こえるが実際の姿は思い浮かばない。将来像への想いに書かれている文言の方が、将来像が思い浮かぶ。将来像への想いを一つのフレーズにして示した方が、将来像イメージできるのではないかと思う。

議長 案はキャッチコピーのイメージである。

委員 前市長のコンパクトシティ政策と現市長のスマートシティ推進ビジョンが受け継がれている気がする。将来像はスローガンのようなものが良いのではないかと思う。「歴史文化でつなぐ」と「幸せ日本一とやま」をつなげ、「歴史文化でつなぐ幸せ日本一とやま」というスローガンとし、詳細は将来像への想いを文章として記載すれば、結びつくのではないか。

議長 キャッチコピーと説明があるとわかりやすい。

委員	案をキャッチコピーとし、想いを説明でよいのではないか。案⑦～⑩は京都とか奈良のような歴史文化のイメージであり、市民にとっては大胆な感じがする。案①、③を精査して利用するのがよい。未来、子どもたちへつなぐということ、合併前の地域の横のつながり、関連性を深めて、密に強化し、先の未来へのつながりといった意味として、ひらがなで書くことでいろいろな意味を含められる。
議長	合併して地域も完全に一体化というところまで至っていない。本計画の中で、歴史文化で一体化する方向性になると感じた。
委員	「つなぐ」について、資料5（富山市の歴史文化の特徴）のようにエリアを横断してつながるとするのがよい。時間軸だけでなく、物理的なエリアをつなぐことも重要と考える。③は未来につなぐという時間軸を意識しており、いろんな意味を含んでいることがよい。つないだ結果どういうまちにしていきたいかを書く作り方がよい。オリジナリティを出すすると、検討の余地はあるが、造語があると良い。富山プライドなど「富山」という言葉が入るのも良いのではないか。
議長	「文化財」より「歴史文化」の方が良さそうである。つながりでいうと、人や地域のつながりもあるため、これらの意見を練って、作ってもらいたい。
議長	資料4（文化財保存活用における課題と方向性案について）についてご質問、ご意見あるか。合併前の文化財のレベル差も未整理であり、未指定についても悉皆調査が必要になる。
委員	分類を7つに分けたものは、今後どのように影響するか。細かく分けると、どちらにも関わってくるものが出てくる心配がある。分類をまとめれば、課題もまとまり、進め方は楽になるのではないか。行政、所有者、周囲にいる人でやるべきことがあり、課題解決の部分になる。あまり細かくせず、先も頭に入れつつ、組み立てる作業をしていくのが良いのではないかと感じた。
事務局	資料4は、まず課題を積み上げてみて、分類を行った。本文においては、将来像、方針をあげ、方針ごとに章立てをし、方針ごとに措置を複数記載する予定である。重複するものは出てくる。 今回、アクションプランを定めることが目的であり、課題方針措置を並べて記載していく。
議長	最終的なものは、つながりがわかりやすくなっていると思う。
委員	重複など難しさがあることは理解できる。複合的に実施するものは主な方に入れていくことになると思うが、課題に対する方向性があり、いろいろなつながりの線が引かれていくことになり、無理に分けるのは本質的ではないのではないか。最終的には関係性を複合的に見せるのが良いのではないか。
議長	資料5（富山市の歴史文化の特徴）についてご意見、ご質問あるか。

- 事務局 掲載しているものに基づき、関連文化財群を設定することになる。抜けているものなどあれば、教えてほしい。
- 議長 旧街道（浜街道、北陸街道）がメインルートとしてあった。関連して岩瀬や水橋の町並みは特色ある都市計画であった。四方のあたりも北前船で潤った地域。建築的なこととしては、県西部はアズマダチ、県東部はマエナガレが断然多い。呉羽の方はアズマダチが見られる。五十嵐家という富山藩お抱えの大工がいた。また、指定されていないが、富山藩主の墓もある。ほか、山田村が含まれておらず可哀そうだが、旧合併市町村による区分けになってしまう。
- 委員 呉羽丘陵遺跡群や城下町から県都へといったワードは確定か？
北前船は大きなテーマになる。また、イタイイタイ病も取り込む大きなテーマが必要になってくる。八尾もいろいろ揃っているが、八尾町だけで出すと、スポットなまとまりになってしまい、おもしろくない。旧山田村が少ないが、飛越交流や立山信仰もあるため、スポットにならない大きな括りがあるとよい。「中世戦乱攻防の地」は全国共通のため、富山らしい言葉が出せたらよい。広いつながりのイメージができないか。
- 事務局 ワードは確定ではない。現時点でまとまりがあるものをまとめている。文化庁調査官からは、例えば、呉羽丘陵には民俗民芸村など遺跡以外のいろいろな文化が集まっているため、ストーリーではなく、エリアとして設定する方法もあると助言を受けているが、資料5については八尾など地域で一括りにする想定はしていない。
- 委員 つながりという点では、街道が大きなポイントである。地域ばらばらより、キーワードでまとめられたらよい。また、越中則重という呉服郷に住んでいた刀工がおり、作品が現存しているが、地元には知られていないため、入っていたらよいと感じた。
- 委員 資料5は章立てでは、どこに関係するか。
- 事務局 関連してくるところは、第3章富山市の歴史文化の特性と第9章関連文化財群になる。
- 委員 点線のエリアと横断するものは、歴史文化特性とストーリーで対応する関係があるか。
- 事務局 点線はエリアとしてまとめられたものをくくったものである。スポットにしない方がよいというご意見もあるため、歴史文化の特性は大きな枠で捉え、その中でオリジナルのストーリーを作っていければと思う。
イタイイタイ病は文化財としては入れにくいですが、歴史文化として、川と生きるといったストーリーの中で考えられる。また、北前船だけでまとめるのが良いのか、それとも江戸時代の町人の活躍として、八尾紙から売薬、北前船と一つにまとめて捉えるか検討している。歴史文化の特性は大枠で捉えて書こうと考えている。
- 委員 まずストーリーをできるだけ多くあげて、歴史文化をグルーピングして作っていく方法が良いと感じた。

(3)未指定文化財の件数について

事務局 ～資料6 未指定文化財の件数について説明～

議長 ご意見、ご質問あるか。

委員 未指定文化財の調査の対象は、郷土史などだが、時代は古いものになるかと思う。近現代のものはどのくらい拾い上げられるのか。

事務局 抽出の元データとなっている文献は、県の近代の歴史遺産などがメインである。何か文献があれば、教えてほしい。

委員 建造物ばかりで、美術工芸品といった芸術作品をまとめたものは、あまりないと思う。美術関係を集めたものなどがあるか。戦後のものも対象になるため、いつまでのものを対象にしたと区切ることも方法である。

事務局 現在の関連文献からピックアップするものも非常に多く、整理に困っているところで、さらに近年のものを入れると調査が大変になる。今回は既に調査が終わっているものをピックアップしたが、以降のものは調査が必要という課題・措置として書く方法も一つである。

委員 手頃なのは、自治会の人にアンケートを配る方法があるが、収集つかなくなる。

議長 将来的には調査されたらよい。

(4)ワークショップについて

事務局 ～資料7 ワークショップについて説明～

(質問、意見特になし)

以上